



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会

2008 / 8 / 2(土)

NO. 26

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

インターハイ北海道予選の所感を高体連バスケットボール専門副委員長の遠山先生から送られてきましたので掲載します。

「2008 北海道高等学校バスケットボール選手権大会を観て」

北海道高体連バスケットボール専門部
副委員長 遠山裕生

大会の感想の前に、お礼を述べさせていただきます。

大会直前、当番校である岩見沢農業高校、会場校である岩見沢西高、さらにはオフィシャル担当校の夕張高校で「麻疹 (はしか)」が発生したという連絡が入りました。

これにより、一気に手薄となった役員や補助生徒の対応。急遽会場を岩見沢西高校から栗山スポーツセンターに変更したこと、それに対する対応。並びにその変更に参加する関係各校に連絡することなど、てんてこ舞いの状態でした。

そんな状況のために全道大会、それも高校生にとって最大の大会である、インターハイ予選という大会であるにも拘わらず、参加チーム・選手に試合のオフィシャルをお願いすることになりました。お願いしたチーム・選手の皆様には、試合の前後にオフィシャルという大変煩わしい思いをお掛けしましたが、いやな顔一つせずに協力を頂きました。本当にありがとうございました。この紙面を借り、お礼申し上げます。

またこの状況の中、当番校の岩見沢農業高校をはじめ、高体連南空知支部、南空知バスケットボール協会、岩見沢市バスケットボール連盟の皆様のご献身的な努力に心から感謝申し上げます。

さて、大会の感想ということですが、私自身すべての試合を観ておらず、また自分自身が女子チームの指導しかしたことがないため、申し訳ありませんが女子の試合やチームを観ての感想を述べさせていただきます。

今回ベスト4には札幌山の手高校 (以下山の手)・札幌創成高校 (以下創成)・旭川藤女子高校 (以下藤女子)・函館大学附属柏稜高校 (以下柏稜) のシードチームが順当に勝ち上がりました。これらの4チームには、それぞれの特徴や個性があり、その特徴・個性を生かして勝ち上がってきたと思います。

山の手はなんといってもフィジカルの強さがあり、そこから生み出されるパワーやスピードなど、例年通り鍛え上げられた強さがあります。

創成はオフェンス・ディフェンスともに、しっかりとコーチが作り上げた緻密さが窺えま

す。また、選手一人一人のシュートも非常に上手でした。

藤女子は、強さとうまさを兼ね備えていました。また、中学時代に全国大会を経験した（全中やオールスター）選手も多く、かけひきの出来る選手もいました。

柏稜は非常に落ち着いたゲーム運びがあり、これは指導者のキャリアや試合全体の捉え方、ゲームプランというものが、選手に反映されているものだと思います。

以上4チームの中から結果的には、山の手が優勝、2位が創成でこの2チームがインターハイに進むことになりました。この大会を通して、私が最も心に残ったのは、改めて言うまでもないことかもしれませんが、『山の手の高さ』ということです。

今年の山の手は、この大会を見る限り、スコアの上では圧倒的に勝ったという訳ではないと思います。決勝リーグの藤女子との試合も藤女子に粘られました。創成戦も85対76と9点差でありました。

それは今年の山の手は、無論優れた選手ではありますが、U-18日本代表として、日本の中心選手として活躍するような（例えばかつての鈴木選手・福士選手・大鷹選手のような）選手は今のところいません。（いや、そんなことはないと言われればお叱りを受けるかもしれませんが・・・）

しかし、だからこそ私はここに山の手の高さを感じます。つまり、山の手はただ単に良い選手を集めて強くなっている訳ではないということ、しっかりと見せてくれたと思います。

毎日毎日のコートの上で練り上げられる、ギリギリの状態での指導者と選手の対決の中から作り出されていく高さ。勝つためにはこうでなければならないというものに選手に突きつけ、要求し、そしてそこから一歩も引かない指導者の高さ。その指導者の要求を受け止め、取り組み、いつかそれを乗り越え、指導者の勝利に対する自我を自分のものとして捉えていく選手の高さ。その高さを、私は今回の山の手から感じました。

勿論それは山の手だけではなく、前述した創成も藤女子も柏稜もそのように取り組んでいることでしょう。さらには、北海道の各チームもそのように取り組んでいるかもしれません。

しかし、その取り組み方には、やはり山の手は他のチームを超えるものがあるように思います。その点で私は山の手の高田先生・上島氏・渡邊先生の指導の高さを今更ながら感じました。

北海道にあって山の手は大いなる目標です。山の手は今年インターハイ予選で18年連続優勝を達成しました。この大いなる目標があることに感謝し、自らの取り組みに目を向けていきたいものです。

大変拙い感想ではありますが、北海道高校バスケットボールの益々の発展を願いながら書かせて頂きました。

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会